

ZUKEN

CORPORATE PROFILE 2025

The Partner For Success

本社・中央研究所 正面玄関の現代彫刻「風景の指輪」
お客様と図研のエンゲージメントを象徴しています。

代表取締役会長 金子 真人

価値を創造する力を支える企業として、
さらなる発展を目指して

技術の進展や社会の変化により、製造業を取り巻く環境はますます複雑になっています。

絶えず変化する環境の中で、柔軟に対応しながら、持続的に価値を生み出し続けることは容易なことではありません。

私たちが提供するソフトウェアおよびサービスは、そうした状況の中にあっても、豊かな発想や優れた技術を、
魅力ある製品開発へとつなげていくための、確かな“基盤”でなければならないと考えています。

製造業を支えるソフトウェア企業としてのこの存在意義は、激しく変化する時代の中でも揺らぐことはありません。

私たちは、価値ある製品づくりに挑むお客様を支えることによって、より良い社会の実現に貢献し続けてまいります。



Vision

エンジニアリングITのチカラで 持続可能な未来を創る



COO message

エンジニアリングITカンパニーとして 次のステージへ

図研は創業以来、品質・コスト・開発スピードのいずれにおいても極めて高い水準が求められるエレクトロニクス製品開発を、ソフトウェアの力で支えてきました。そして、世界のトップクラスのお客様の設計改革を支援する中で、インテグレーション能力と課題解決能力を培ってきました。私たちは今、この蓄積を礎にMBSE（モデルベース・システムズエンジニアリング）を中核としたエンジニアリングITのさらなるグローバル展開を推進しています。

MBSEは、製品開発の初期段階において要件を構造化し、その整合性を確保することで、企画から市場投入に至る製品ライフサイクル全体を変革する強力なアプローチです。これにより、複雑かつ高度な要件を有する製品開発を成功へと導きます。

一方で、MBSEは製品ライフサイクル全体に与える影響が大きいがゆえに、単にソフトウェアを提供するだけでは十分な効果が得られません。お客様が目指す未来と直面する課題を、コンサルティングを通じて徹底的に掘り下げ、最適解を導き出さなければなりません。こうしたお客様との深いコミュニケーションとソフトウェアを組み合わせたソリューションの提供こそが、図研ならではの強みが最も発揮できる領域であると確信しています。

エレクトロニクス製品開発の現場で培ってきたソフトウェアをベースとするコンサルティングに、MBSEという新たなソリューションが加わることで、図研はエンジニアリングITカンパニーとして、次のステージへと力強く歩みを進めてまいります。

代表取締役社長 勝部 迅也



製品ライフサイクル全体を デジタルでつなぐ

MBSE

モデルベース・システムズエンジニアリング

急速な技術の進化は、製造業のモノづくりプロセスそのものに大きな変革をもたらしています。図研は、より高品質で効率的な製品開発を支援するため、企画・構想から販売・保守に至るまでの製品ライフサイクル全体をデジタルでつなぐMBSEを中核としたエンジニアリングITを提供しています。

モノづくりプロセス

企画・構想

要求分析

システム設計

詳細設計

試作・検証

生産準備

製造・部品実装

販売・保守



「つながる社会」の製品開発を支援する 新たなエンジニアリング

あらゆる製品が「つながる」ことにより、モノづくりは複雑かつ高度なシステムの相互連携を前提とした機能開発が求められています。このような複合システムの開発において、製品の企画・構想段階でシステム全体を俯瞰し最適解を導き出すことができるMBSEを提案し、導入/運用コンサルティングとツール提供の両面で支援しています。



エンジニアリング データマネジメント

EDM

DS-2

E/E(電気/電子)を熟知した図研だからできる 製品ライフサイクルマネジメント

電子部品情報の一元管理、部品・回路・基板の各情報を連携させて保持する設計成果物管理など、エレクトロニクス製品開発に最適化された製品データマネジメントシステムを提供しています。MBSEモデリングツールや電気設計システム、他社PLMとの連携により、エンジニアリングプロセス全体の高品質化や効率化に貢献します。



エレクトロニクス 設計

EDA

CR-8000

エレクトロニクス製品開発のプラットフォーム となるプリント基板設計ソリューション

エレクトロニクス製品の高度な機能は、半導体などの電子部品を搭載したプリント基板(PCB)の電子回路により実現されています。そのE/E(電気/電子)システムの設計製造を自動化・最適化するためのソフトウェアを提供しています。3D技術やAI技術の活用により、設計プロセスを革新し、業務効率の向上に貢献します。



電気制御・ ケーブル設計



産業機器開発の効率化や高品質化に貢献する 配線設計支援ソリューション

産業機器や電子機器の内部には、ユニットや部品間を電氣的に接続、制御するためのケーブルやハーネスが複雑に張り巡らされています。このケーブルやハーネスの設計を効率化するシステムを提供しています。図面や部品データのリアルタイム連携、設計成果物の自動出力により、電装設計の効率化と品質向上に貢献します。



自動車電装・ ハーネス設計



次世代モビリティ開発のための 先進E/Eシステム設計ソリューション

最先端の車載エレクトロニクスシステムを多数搭載し、高度化・複雑化する自動車開発。その開発の中核を担うE/Eシステムの設計環境を提供しています。ジェネラティブデザインを活用することで、回路設計からワイヤハーネスの製造設計までのプロセスを効率化し、品質向上に貢献します。



「つながる社会」の製品開発 精度とスピードを両立し、最適解を導く

今、IoTやAIの活用により、製品の複雑化、高度化が進み、あらゆるシステムとつながる製品開発が必要とされる時代が到来しています。こうした中で注目されている開発手法が、「MBSE（モデルベース・システムズエンジニアリング）」です。

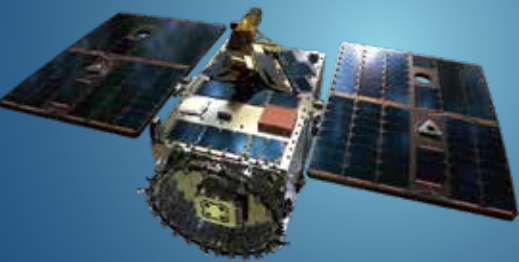
MBSEは、製品開発全体を見通し、最適解を導く「システムズエンジニアリング」の考え方にに基づき、システムモデルを用いて、仕様検討やアーキテクチャの設計を行う手法です。システム要件が複雑化する中で、従来のドキュメントベースでは、関係者間での認識のずれや手戻りなどが発生し、複雑な要件変更への対応が困難でした。一方、MBSEでは製品の目的や要求、構造、振る舞いなどを可視化された

モデルとして一元管理することで、設計意図の共有が容易となり、開発の初期段階から品質や効率を高めることが可能になります。MBSEは、開発の精度とスピードを両立させ、将来的な変更にも柔軟に対応できる、次世代のモノづくりの中核となるアプローチです。

図研はこのMBSEをベースに、モノづくりプロセスの革新を支援することで、モノづくりの高度化・最適化に貢献します。製造業のお客様がさまざまな技術ドメインを俯瞰的に捉えて、革新的な製品開発をより効果的かつスピーディに実現するために、MBSEを中核としたエンジニアリングプロセス改革を提案しています。



MBSE 事例



衛星開発を成功に導く

ポーランドの宇宙開発企業Creotech Instruments S.A.は、2024年に打ち上げられた地球観測用の超小型衛星「EagleEye」の開発においてMBSEモデリングツール「GENESYS」を活用し、MBSEを実践しています。

EagleEyeプロジェクトでは、宇宙ミッションのステークホルダー要求の整理からアーキテクチャ設計、検証・妥当性確認までのプロセスを統合的に管理するために「GENESYS」を活用。これにより、設計の一貫性とトレーサビリティが確保され、開発の効率化と高品質化につながっています。また、「GENESYS」と「E3.series」を連携することで、ワイヤハーネス設計の効率化も実現しています。

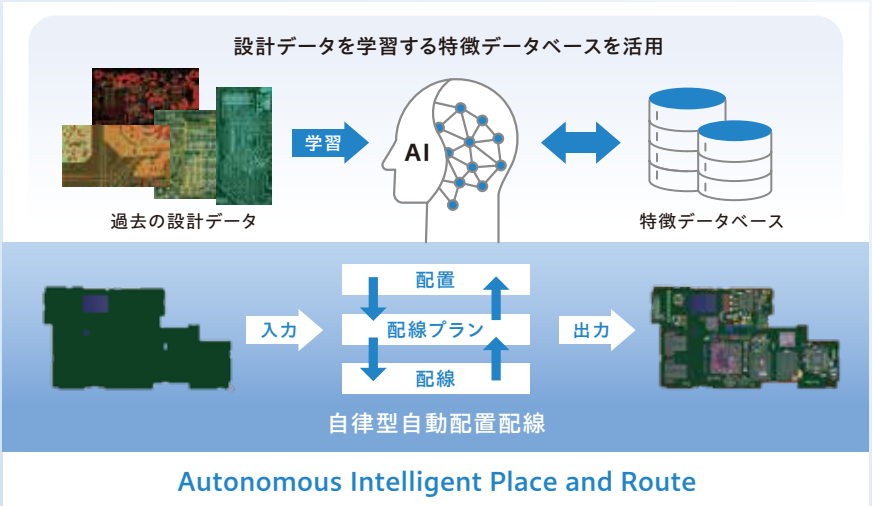
持続可能な未来のクルージングを創造 Grand Large Yachtingのイノベーションを支援



長距離航海用クルーザーを製造するフランス企業Grand Large Yachtingは、卓越した技術力とサステナビリティを両立したモノづくりを追求しています。創業以来、製品開発のイノベーションを推進し、デザイナーの創造性を促進する技術を活用することで、グループ全体のエンジニアリングプロセスを強化してきました。その取組みの一環として、図研の電気制御・電装設計システム「E3.series」を導入。カスタマイズ対応によって複雑化する電気システムを管理し、製品の品質を安定的に確保するために設計環境を整備しました。「E3.series」による電気設計プロセスの標準化と自動化により、顧客のニーズに応じた柔軟かつ効率的な製品開発が可能となり、数日かかっていた開発業務を数時間に大きく短縮しました。

サステナビリティを重視するGrand Large Yachtingは、パイオ由来樹脂、ソーラーパネル、フラックス繊維、そして、光・水力発電と電動化を組み合わせたハイブリッドエネルギーシステムなど、先進的ソリューションの開発に取り組み、環境負荷を最小限に抑えるモノづくりを推進しています。図研は、Grand Large Yachtingが目指す「持続可能なクルージング」の実現に向けて、その挑戦を支援しています。

製造業の人材不足問題の一助に。AI活用でプリント基板設計を変革



近年の電子機器の小型化・高機能化に伴い、電気設計に関わる工数は増大しています。また、エンジニア不足も深刻化し、モノづくりの省力化・自動化が製造業における共通課題となっています。

図研は、この課題に対し電気設計の作業効率を大幅に向上させるソリューションとして、AIを活用したプリント基板用の自動配置配線機能「Autonomous Intelligent Place and Route」の開発を継続的に行っています。この機能により、従来の機械的な自動配線ではなく、設計者の嗜好や特徴を反映した自動配置配線を実現することを目指しています。

未来のモノづくりを担うエンジニアを応援

学生フォーミュラは、学生たちが一人乗りのフォーミュラカーを自ら構想・設計・製作し、クルマの走行性能に加え、設計コンセプトや量産コスト、販売戦略などの総合的な成果を競い合うモノづくりコンペティションです。図研はこれまで、欧州や日本を中心に、この学生フォーミュラに挑戦するチームを支援してきました。特に、図研の本社がある横浜を拠点とする「横浜国立大学フォーミュラチーム」には、EV駆動のフォーミュラカー開発における電装設計用CADとして「E3.series」を提供し、その開発を支援しています。図研はこれからも、情熱を持って挑戦を続ける未来のエンジニアたちを応援し、モノづくり業界のさらなる発展に貢献していきます。



日本で生まれ、世界で育てられたソフトウェア

日本発の図研ソフトウェアは、創業間もなく北米に展開され、さらに欧州やアジアへと広がっていきました。現在、図研は世界14カ国で事業を展開し、日本・ドイツ・イギリス・アメリカの4カ国に研究開発拠点を構えています。各拠点が連携して研究開発を行い、最先端技術を迅速に取り入れることで、世界のモノづくりを支える革新的な製品を生み出しています。

- 本社
- エリア本社
- ビジネス拠点
- ★ 主なR&D拠点
- ▲ 販売拠点

Europe



産業機械や自動車関連などの分野で世界市場をリードする企業が多く存在する欧州において、図研は確固たる事業基盤を築いています。販売拠点だけでなく、自動配線技術・解析技術など、エレクトロニクス設計ソリューションの核となる技術開発を行う拠点も有しています。ドイツ、イギリスの研究開発拠点は、図研のグローバル市場に向けた次世代E/E設計ソリューションの一翼を担っています。

- ドイツ
 - Zuken GmbH (European Headquarters)
 - ★ ● Zuken E3 GmbH
 - ★ Zuken GmbH (EMC Technology Center)
 - Zuken E3 GmbH Office Nord
 - ★ Zuken E3 GmbH (Global Automotive and Transportation Competence Center)
- イギリス
 - ★ ● Zuken Ltd. (Zuken Technology Center) / Zuken Group Ltd. / Zuken UK Ltd.
- ポーランド
 - Zuken E3 GmbH Sp.z o.o
- スイス
 - Zuken E3 GmbH, Zweigniederlassung
- フランス
 - Zuken S.A.
- イタリア
 - Zuken S.r.l.
- オランダ
 - Zuken GmbH, Sales Office Benelux

Japan & Asia



創業の地でもある横浜では、グローバル本社機能を持つ拠点として、日本をはじめ、世界各地の製品開発や事業展開を統括しています。製造業を取り巻く環境がグローバル化・ボーダーレス化する中、製造拠点としてだけでなく製品開発でもその重要性が高まるアジアでは、韓国、シンガポール、中国、台湾、インドに現地法人を設立。各国お客様のニーズを的確に捉え、最善の提案ができる体制を整えています。

- 日本
 - ● ● ★ 本社・中央研究所(横浜)
 - センター南ビル(横浜)
 - 新横浜ビル(横浜)
 - 関西支社(大阪)
 - 名古屋支社(名古屋)
- 大韓民国
 - Zuken Korea Inc.
- シンガポール
 - Zuken Singapore Pte. Ltd.
- 中華人民共和国
 - Zuken Shanghai Technical Center
 - Zuken Inc.Shenzhen Representative Office
- 台湾
 - Zuken Taiwan Inc.
- インド
 - Zuken India Private Limited

Americas



世界のモノづくりに大きな影響を与えるイノベティブな企業が多い北米は、図研にとって重要な事業開発の拠点です。この市場で図研はトップクラスの在米ハイテク企業を多数顧客に持ち、最先端のソリューションを提供しています。また、システムズエンジニアリング領域で数多くの実績を持つZuken Vitechを中心に、MBSEソリューションの製品開発を進めています。

- アメリカ
 - Zuken USA Inc.(American Headquarters)
 - ★ ● Zuken Vitech Inc.

図研および図研の
海外法人の従業員数

図研 海外法人
433名 379名

※国内関係会社の人員および海外駐在員は含みません。※2025年3月末時点

エレクトロニクスの発展と共に紡いだ企業価値

図研は1976年の創業以来、エレクトロニクス産業の発展とともに歩んできました。社会を豊かにするさまざまな電子機器の開発を陰で支えながら、エレクトロニクスが使われる分野の広がりとともに、そのソリューションの幅を広げ、事業領域を着実に拡大してきました。これからも新たなテクノロジーに挑戦するお客様とともに、豊かな社会の実現に貢献し続けます。

国内初のCAD/CAMシステムで、 プリント基板設計自動化への道を拓く



発売当時のクリエイト2000

- 1976.12 (株)図形処理技術研究所として設立
- 1978. 6 国産初のプリント基板設計用CAD/CAMシステム「クリエイト2000」を開発



エレクトロニクス産業の 発展とともに確固たる 事業基盤を築く

エレクトロニクス製品の
小型化に貢献

- 1991.10 EDA企業として初めて株式を東証二部に上場
- 1992. 1 ドイツにZuken Europe GmbH
[現・Zuken GmbH]を設立
韓国にZuken Korea Inc.を設立
- 8 シンガポールにZuken Singapore Pte. Ltd.を設立
- 1994. 4 EDA垂直統合ソリューション「CR-5000」を開発
- 6 レーカル・リダック社(英)を子会社化
- 9 東証一部へ指定替え
- 1996. 5 エレクトロニクス設計に特化した
データ管理ソリューション「DS-1」を開発

ワイヤハーネス設計支援、エレキ・ メカ連携などソリューションを拡大



輸送機器向けE/Eシステム設計ソリューションを開発

- 2010. 5 ラティス・テクノロジー(株)と資本提携、トヨタ自動車(株)に次ぐ第2位の株主へ
- 2011. 6 BOMと超軽量三次元フォーマットXVLを統合した「visual BOM」を発表
- 10 次世代電子機器設計システム「CR-8000」を世界同時発表
- 2014. 8 ドイツにGlobal Automotive and Transportation Competence Centerを開設
- 12 東洋ビジネスエンジニアリング(株)[現・ビジネスエンジニアリング(株)]と資本業務提携
- 2015. 3 インドにZuken India Private Limitedを設立
- 7 (株)ワイ・ディ・シーの「CADVANCE事業」(電気系CAD・PDM関連事業)を継承
- 2016. 4 プリサイト事業を分社化し、(株)図研プリサイトとして発足
- 2017.12 アルファテック(株)[現・図研アルファテック(株)]を子会社化
- 2019. 8 Vitech Corporation(米)[現・Zuken Vitech Inc.]を子会社化
- 9 ギリア(株)と資本業務提携
- 10 図研モデリンクス(株)を設立

1970

エレクトロニクス
製品の変遷▶



1980



1990



2000



2010



2020



- 1983.11 米国にZuken America Inc.
[現・Zuken USA Inc.]を設立
- 1988. 1 CADの新システム「CR-3000」を開発

汎用ソフトウェアとして グローバルで販売を加速



CR-3000で、UNIX OS、ワークステーションに対応

- 2000. 3 インケイシス社(独)の全株式を取得
- 2002. 3 自動車用ワイヤハーネス設計環境の提供開始
- 6 中国に上海テクニカルセンターを設立
- 2004. 2 E&Eプロセスを中心としたライフサイクル管理ソリューション
「ePLMプラットフォームDS-2」を発表
- 2005. 8 台湾にZuken Taiwan Inc.を設立
- 2006. 5 CIM-TEAM社(独)[現・Zuken E3 GmbH]を買収
- 2007. 6 CATIA V5をベースとした「V54EE」を発売
- 2009. 6 PLMソリューション「PreSight」を発表

研究開発・事業開発体制の グローバル化を推進



イギリスの研究開発拠点 Zuken Technology Center

- 2021.11 ビジネスエンジニアリング(株)の株式を
追加取得し、持分法適用関連会社化
- 2022. 4 東証一部からプライム市場へ移行

MBSEソリューションを展開 製造業DX支援を強化



日本の製造業向けにMBSE製品戦略を発表

健全な財務基盤・着実に事業を拡大

製造業にとって、将来の成長を左右する重要な基幹業務である製品開発。図研が提供するの、そこで求められるさまざまなソリューションです。お客様の製品開発戦略を支え、長期にわたって安心してお使いいただくためには、ソリューションを提供する会社として私たち自身が安定した経営基盤をもつことが必要です。また、技術革新の激しい情報技術の世界において、最先端の技術をタイムリーに提供し続けていくためには、機動的に投資を行っていかねばなりません。だからこそ、図研は創業以来、健全な財務基盤を確立し維持していくことを、重要な経営戦略の一つと考えています。



地域別売上高比率

地域	比率 (%)
日本	69.0
欧州	18.2
北米	7.4
アジア	5.2
その他	0.2

製品別売上高比率

製品	比率 (%)
ITソリューション	24.7
クライアントサービス	41.5
回路設計ソリューション	21.5
基板設計ソリューション	12.2
その他	0.1

社名	株式会社 図研 [ZUKEN Inc.]	取締役・監査役	代表取締役会長	金子 真人
設立	1976年12月17日		代表取締役社長	勝部 迅也
			代表取締役副社長	相馬 肅一
本社所在地	〒224-8585 横浜市都筑区荏田東2-25-1		取締役※	佐野 高志
			取締役※	高原 わかな
			監査役 (常勤)	和田 扶佐夫
資本金	101億 1,706万 5,000円		監査役※	高田 保豊
従業員	438名 連結1,610名 (2025年3月31日現在)		監査役※	川口 恵都子
株式市場	東京証券取引所プライム市場		※は社外取締役および社外監査役です。	
事業内容	製造業における製品設計・開発業務 全体の高度化・最適化を支援する、 各種ITシステムの開発・製造・販売や、 コンサルティングサービスなど	執行役員	専務執行役員	飯屋 和浩
			専務執行役員	上野 泰生
			執行役員	藤原 宏行
			執行役員	大澤 岳夫
			執行役員	早乙女 幸一
			執行役員	奈良 功
			執行役員	大塚 隆夫

株式会社図研プリサイト

軽量化された三次元データと部品表 (BOM) を連携させる技術をベースにした製品ライフサイクルマネジメント (PLM) システムや、ユーザに負荷をかけないナレッジ活用ソリューションなど、製造業を支援する独創的な製品を企画・開発しています。

図研テック株式会社

CADの導入・立ち上げ・運用をはじめとした、設計開発業務を幅広く支援するための各種コンサルティング、オンサイトマネージャ・エンジニア派遣、受託サービスなどを提供しています。

図研アルファテック株式会社

メカトロニクス業界向けの電気CADの開発・販売・サポート、2D/3D汎用メカニカルCAD・CAEの販売やカスタマイゼーションなどを行っています。新たな事業として、今後普及が予想される3Dモデリング技術の建築分野への適用も推進しています。

図研ネットウェイブ株式会社

今や企業活動にとって不可欠のインフラである情報ネットワーク。セキュリティソリューションやストレージなどの企業ネットワークに係る最新技術のハードウェア・ソフトウェアの販売・サポートや、構築コンサルティングなどを行っています。

図研モデリンクス株式会社

製品開発においてMBD (モデルベース開発)、MBSE (モデルベースシステムズエンジニアリング) などの手法の導入・運用を目指す企業に対して、開発支援サービスを中心とした総合的なソリューション提案を行っています。

図研エルミック株式会社

低遅延ストリーミング、通信プロトコルに関するノウハウと技術資産をベースに組込みソフトウェアの受託開発を行っています。特に、セキュリティ機器、産業用ネットワーク、車載通信の分野で多くの実績があります。

ビジネスエンジニアリング株式会社

グローバル市場で活躍する製造業のお客様向けに、ERP (企業資源計画) 導入コンサルティングや構築・運用サービス、SCM (サプライチェーン管理) パッケージシステムの開発販売など、豊富なITソリューションで業務改革を支援しています。

